

# 小倉百人一首

## 嵐山・嵯峨野 歌碑巡り

歌番号  
天智天皇  
歌人名

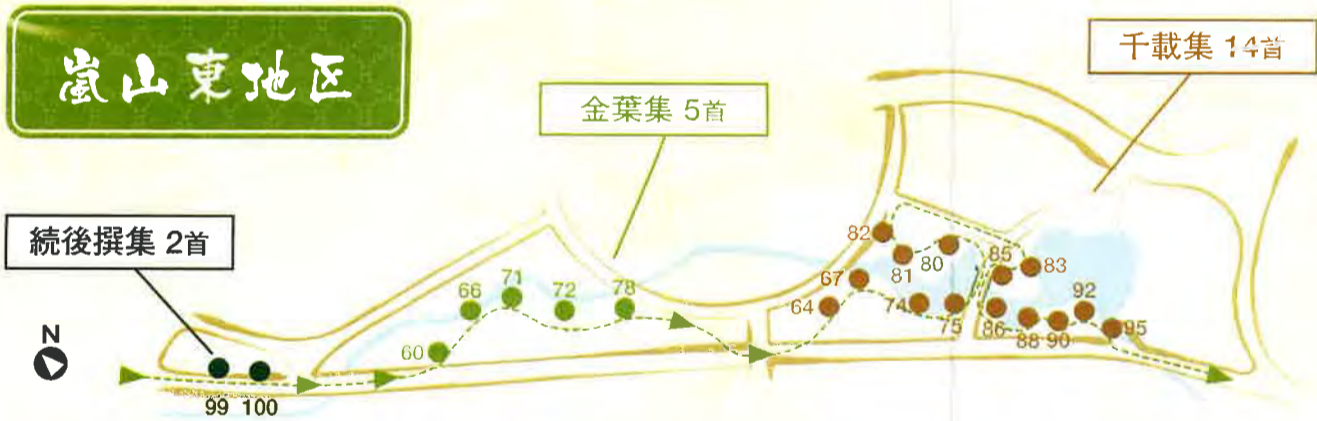
## 歌碑MAP

### 小倉百人一首文芸苑



至松尾↓

### 嵐山東地区



### 新勅撰集 4首



### 野々宮地区

- 78 源兼昌 淡路島かよふ千鳥の鳴く声に 幾夜ねざめぬ須磨の関守
- 72 祐子内親王家紀伊 音にきくたかしの浜のあだ波は かけじや袖のぬれもこそすれ
- 71 大納言経信 夕されば門田の稲葉おとつれて 葎のまろやかに秋風ぞ吹く
- 66 前大僧正行尊 もろともにあはれと思へ山桜 花よりほかに知る人もなし
- 60 小式部内侍 大江山いく野の道の遠ければ まだふみも見ず天の橋立
- 100 順徳院 百敷やふるき軒端のしのぶにも なほあまりある昔なりけり
- 99 後鳥羽院 人もをし人も恨めしあぢきなく 世を思ふゆゑに物思ふ身は



93 鎌倉右大臣  
世の中はつねにもがもな渚こぐ  
あまの小舟の綱手かなしも

### 新勅撰集

- 67 周防内侍 春の夜の夢ばかりなる手枕に かひなく立たむ名こそ惜しけれ
- 64 権中納言定頼 朝ぼらけ宇治の川霧たえだえに あらはれたる瀬々の網代木
- 98 従二位家隆 風そよぐならの小川の夕暮れは みそぎぞ夏のしるしなりける
- 97 権中納言定家 こぬ人をまつほの浦の夕なきに 焼くやもしほの身もこがれつつ
- 96 入道前太政大臣 花さそふ風の庭の雪ならで ぶりゆくものはわが身なりけり
- 75 藤原基俊 92 二条院讃岐
- 74 源俊頼朝臣 90 股宮門院大輔
- 80 待賢門院堀河 95 前大僧正慈円
- 82 道因法師
- 81 後徳大寺左大臣
- 83 皇太后宮大夫俊成
- 85 俊恵法師
- 86 西行法師
- 88 皇嘉門院別当



### 他 千載集より

春の夜の夢のようにはかない  
あなたの腕枕のために、つまら  
なく立ってしまう浮き名を  
残念に思ふことです。

朝だんだんと明るくなつてく  
る頃、宇治川に立ち込めた川  
霧がとぎれとぎれに晴れてい  
き、その霧の間から、しだいに  
現れてくるあちこちの川の  
瀬に仕掛けた網代木よ。

98 従二位家隆 風そよぐならの小川の夕暮れは みそぎぞ夏のしるしなりける

97 権中納言定家 こぬ人をまつほの浦の夕なきに 焼くやもしほの身もこがれつつ

96 入道前太政大臣 花さそふ風の庭の雪ならで ぶりゆくものはわが身なりけり



奥野々宮地区



後撰集

1 天智天皇

秋の田のかりほの庵の苫をあらみ  
わが衣手は露にぬれつつ

刈り取られた稲の見張り小屋で、ただひとりで夜を明けして、露に濡れている屋根の苫の編み目が粗いので、私の着物にぐっしりと夜露で濡れ続けているよ。

10 蝉丸  
これやこの行くも帰るも別れては  
知るも知らぬもあふ坂の関

13 陽成院  
つばねの峰より落つるみな  
の川  
こひぞつもりて淵となりぬる

他 後撰集より

- 20 元良親王
- 25 三条右大臣
- 37 文屋朝康
- 39 参議等



雲山地区



拾遺集 11首

古今集 24首

後拾遺集 14首

古今集

5 猿丸大夫  
奥山にもみぢ踏み分け鳴く鹿の  
声聞く時ぞ秋は悲しき

7 安倍仲磨  
天の原ふりさけ見れば春日なる  
三笠の山に出でし月かも

大空を仰いで見ると、三笠の山と月が照り輝いている。かつて奈良の春日にある三笠山の上に昇ったあの日が、今もここに輝き続けているのだ。

他 古今集より

- 8 喜撰法師
- 9 小野小町
- 11 参議整
- 12 僧正遍昭
- 14 河原左大臣
- 15 光孝天皇
- 16 中納言行平
- 17 在原業平朝臣
- 18 藤原敏行朝臣
- 21 素性法師
- 22 文屋康秀
- 23 大江千里
- 24 首家
- 28 源宗于朝臣



後拾遺集

42 清原元輔  
契りきなかたみに袖をしぼりつつ  
末の松山波越さじとは

誓い合いましたね。お互いの涙で濡れた袖を絞りながら。心変わりをすれば波が越すという末の松山を波が越すことがないように、私たち二人の愛も決して変わりはないと。

50 藤原義孝  
君がため惜しからざりし命さへ  
長くもがなと思ひけるかな

他 後拾遺集より

- 51 藤原実方朝臣
- 52 藤原道信朝臣
- 56 和泉式部
- 58 大式三位
- 59 赤染衛門
- 62 清少納言
- 63 左京大夫道雅
- 65 相模
- 68 三条院
- 69 能因法師
- 70 良退法師
- 73 前中納言匡房

拾遺集

3 柿本人麻呂  
あしびきの山鳥の尾のしだり尾の  
ながながし夜をひとりかも寝む

26 貞信公  
小倉山峰のもみぢ葉心あらば  
今ひとたびのみゆき待たなむ

他 拾遺集より

- 38 右近
- 40 平兼盛
- 41 壬生忠見
- 43 権中納言敦忠
- 44 中納言朝忠
- 45 謙徳公
- 47 惠慶法師
- 53 右大将道綱母
- 55 大納言公任



長神の杜地区



新古今集 14首

新古今集

2 持統天皇

春すぎて夏来にけらし白妙の  
衣ほすてふ天の香具山

いつの間にか春が過ぎて夏が来たらしい。どうりで、夏になると白い衣を干すと言いつたある天の香具山の麓に、目にも鮮やかな真っ白な衣が干してあるのが見えるよ。

4 山部赤人  
田子の浦にうち出でて見れば白妙の  
富士の高嶺に雪はふりつつ

6 中納言家持  
かささぎの渡せる橋におく霜の  
白きを見れば夜ぞふけにける

19 伊勢  
難波湯みじかき葦のふしの間も  
あはてこの世を過ぐしてよとや

27 中納言兼輔  
みかの原わきて流るるいづみ川  
いつみきとてか恋しかるらむ

他 新古今集より

- 16 曾禰好忠
- 54 儀同三司母
- 57 紫式部
- 79 左京大夫頼輔
- 84 藤原清輔朝臣
- 87 寂蓮法師
- 89 式子内親王
- 91 後京極権政前太政大臣
- 94 参議雅經

詞花集

48 源重之  
風をいたみ岩つつ波のおれのみ  
くだけて物を思ふところかな

49 大中臣能宣  
みかきもり衛士のたく火の夜は燃え  
昼は消えつ物をこそ思へ

61 伊勢大輔  
いにしへの奈良の都の八重桜  
けふ九重にほひぬるかな

他 詞花集より

- 76 法性寺入道前白太政大臣
- 77 崇徳院